

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪健康福祉短期大学
設置者名	学校法人みどり学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計			
	介護福祉学科	夜・通信	0	0	73	73	7		
	子ども福祉学科	夜・通信			59	59	7		
	保育・幼児教育学科	夜・通信		0		71	71	7	
	地域総合介護福祉学科	夜・通信				25	25	7	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-009.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪健康福祉短期大学
設置者名	学校法人みどり学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-01-002.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2024.4.1 ~ 2028.3.31	法律顧問の役割と、 経営に関する深い 識見を生かした助 言に期待。
非常勤	株式会社従業員	2024.4.1 ~ 2028.3.31	民間企業での長年 の経験を生かして、 経営に関する適切 な助言を期待。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪健康福祉短期大学
設置者名	学校法人みどり学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成過程について： 本学では各科目担当者にシラバスの作成を依頼し、教務事務が取りまとめ、学科長・教務主任・教務事務によるチェックを行い、必要場合は科目担当者に修正を依頼し、シラバスを作成している。また、科目担当者に対し、シラバス作成のガイドラインを配布する他、シラバス作成のガイダンスを実施している。 シラバスの作成・公表時期： 作成されたシラバスは、3月～4月に新入生・在学生に配布され、その後ホームページで公表される。	
授業計画書の公表方法	介護福祉学科 http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-003a1.pdf 子ども福祉学科 http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-003b.pdf 保育・幼児教育学科 http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-003c.pdf 地域総合介護福祉学科 http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-003a2.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスにより学生にあらかじめ示された成績評価の方法・基準に基づき各科目担当教員が成績評価を行っている。成績は100点満点で採点し、学生に通知している。60点以上の成績をおさめた科目についてその単位取得を認めている。点数及び評語の対応は以下の通り。

100点～90点… S (学習目標を十分満たし、特に優れている)

89点～80点… A (学習目標を十分満たし、優れている)

79点～70点… B (学習目標を十分満たしている)

69点～60点… C (学習目標を最低限満たしている)

59点以下 …… D (学習目標を満たしておらず、単位と認めない)

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学における成績評価平均値(以下 GPA)の算出方法は次の通りであり、この方法に従い適切に数値を算出している。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目の GP}^{\ast}) \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数合計}}$$

※「当該科目の GP」を次の通り定める。

当該科目の評価	S	A	B	C	D	無資格・不受
当該科目の GP	4	3	2	1	0	0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-010.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では以下の通りディプロマポリシーを策定し、シラバス作成時にディプロマポリシーに沿うよう依頼する等、適切に実施している。

介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科（共通）：

介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科は、こころとからだの健康やいのちを守り、社会福祉の充実をはかる人材の育成を教育目標としており、必要とされる授業科目の単位を含め、62 単位以上を取得したのに対して短期大学士の学位（介護福祉学）を与える。

1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間性と社会性を身につけている。
2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる。
3. 介護や福祉に対する深い関心をもち、主体的に学び、自ら考えられる力を身につけている。
4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身につけている。
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている。

子ども福祉学科：

子ども福祉学科及び保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成を教育目標としています。学習を通じて以下の目標を達成し、必要とされる授業科目を含め 62 単位以上を習得したのに対して短期大学士の学位（保育学・教育学）を与えます。

1. 子どもの育ちを支える人となる
 - ・専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる
 - ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる
 - ・保育者として子どもの豊かな心を育む
2. 保護者の子育てを支える人となる
 - ・子どもと保護者の状況を理解することができる
 - ・保護者とより良い関係をつくりながら子育てを支える
3. 子どもと子育てにやさしい社会をつくる人となる
 - ・社会の仕組みを理解する
 - ・社会のあり方について考える・実践する
4. 人間性・倫理性・共同性をもつ人となる
 - ・社会人としての知識・教養やコミュニケーションと人間性、科学的・論理的に考え、表現する力を身につける
 - ・文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につける

保育・幼児教育学科：

保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成のために、以下の教育目標を掲げています。

- (1) 幼児教育・保育における理論的かつ実践的な知識及び技能を養う。
- (2) より良い教育・保育を実現するために、その対象者、地域、関係機関等との協働を可能にする豊かな感性と親和性、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養う。
- (3) より良い教育・保育を実現するために、生涯学び続ける保育者としての力を養う。

このような目標のもと、本学科の学修を通して必要とされる授業科目を含め 62 単位以上の単位を習得したことで、以下の能力・資質を身に付けた者に対して短期大学士の学位（教育学・保育学）を与えます。

1. 保育や幼児教育に関する基礎的な知識を身に付けている。
2. 子どもの育ちを支えるための技能を身に付けている。
3. 子どもの人権を保障し、子どもを取り巻く諸課題の解決に向けて自ら考える力を身に付けている。
4. 異なる価値観を認め合い、自ら人間関係を形成する力を身に付けている。
5. 地域社会の一員として、保育実践力や社会性を高めようとする力を身に付けている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-
college/midori-info/pdf/midori-info-02-008.pdf](http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-008.pdf)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪健康福祉短期大学
設置者名	学校法人みどり学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/index.php
収支計算書又は損益計算書	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/index.php
財産目録	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/index.php
事業報告書	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/index.php
監事による監査報告(書)	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/index.php

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-007.pdf
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	介護福祉学科、子ども福祉学科、保育・幼児教育学科、地域総合介護福祉学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-01-001.pdf ）	
（概要）	
介護福祉学科	高齢者や障害を持つ人々の生活を理解し、学生により良い介護ケアを行う力を身につけさせるために、「介護」を学びの中心にして、それを支える「人間と社会」「こころとからだのしくみ」という3つの領域を学習します。 実習施設と大学の結びつきを密にして、現場の実践に学び、それを理論化することを重要な研究課題としています。
子ども福祉学科	学ぶ内容は、基礎分野としての「教養科目」と、保育士、幼稚園教諭に必要な「専門教育科目」の2種類があります。未来を担う子どもたちの心と身体を育てるために、専門性が身につくカリキュラムを用意しています。保育所・幼稚園に加えて、居住型の児童福祉施設、障害児通園施設、児童館、学童保育など、さまざまな施設で実習が受けられます。 実習と講義は密接に結びつき、講義の学びを実習に、実習の学びを講義に発展・応用させて、豊かな実践力を身につけます。
保育・幼児教育学科	学ぶ内容は、基礎分野としての「教養科目」と、保育士、幼稚園教諭に必要な「専門教育科目」の2種類があります。未来を担う子どもたちの心と身体を育てるために、専門性が身につくカリキュラムを用意しています。保育所・幼稚園に加えて、居住型の児童福祉施設、障害児通園施設、児童館、学童保育など、さまざまな施設で実習が受けられます。 実習と講義は密接に結びつき、講義の学びを実習に、実習の学びを講義に発展・応用させて、豊かな実践力を身につけます。
地域総合介護福祉学科	高齢者や障害を持つ人々の生活を理解し、学生により良い介護ケアを行う力を身につけさせるために、「介護」を学びの中心にして、それを支える「人間と社会」「こころとからだのしくみ」という3つの領域を学習します。 実習施設と大学の結びつきを密にして、現場の実践に学び、それを理論化することを重要な研究課題としています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-008.pdf ）	
（概要）	
介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科（共通）：	介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科は、こころとからだの健康やいのちを守り、社会福祉の充実をはかる人材の育成を教育目標としており、必要とされる授業科目の単位を含め、62単位以上を取得したものに対して短期大学士の学位（介護福祉学）を与える。 1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間性と社会性を身につけている。 2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる。 3. 介護や福祉に対する深い関心をもち、主体的に学び、自ら考えられる力を身につ

けている。

4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身につけている。
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている。

子ども福祉学科

子ども福祉学科及び保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成を教育目標としています。学習を通じて以下の目標を達成し、必要とされる授業科目を含め 62 単位以上を習得したものに對して短期大学士の学位（保育学・教育学）を与えます。

1. 子どもの育ちを支える人となる
 - ・専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる
 - ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる
 - ・保育者として子どもの豊かな心を育む
2. 保護者の子育てを支える人となる
 - ・子どもと保護者の状況を理解することができる
 - ・保護者とより良い関係をつくりながら子育てを支える
3. 子どもと子育てにやさしい社会をつくる人となる
 - ・社会の仕組みを理解する
 - ・社会のあり方について考える・実践する
4. 人間性・倫理性・共同性をもつ人となる
 - ・社会人としての知識・教養やコミュニケーションと人間性、科学的・論理的に考え、表現する力を身につける
 - ・文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につける

保育・幼児教育学科：

保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成のために、以下の教育目標を掲げています。

- (1) 幼児教育・保育における理論的かつ実践的な知識及び技能を養う。
- (2) より良い教育・保育を実現するために、その対象者、地域、関係機関等との協働を可能にする豊かな感性と親和性、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養う。
- (3) より良い教育・保育を実現するために、生涯学び続ける保育者としての力を養う。

このような目標のもと、本学科の学修を通して必要とされる授業科目を含め 62 単位以上の単位を習得したことで、以下の能力・資質を身に付けた者に対して短期大学士の学位（教育学・保育学）を与えます。

1. 保育や幼児教育に関する基礎的な知識を身に付けている。
2. 子どもの育ちを支えるための技能を身に付けている。
3. 子どもの人権を保障し、子どもを取り巻く諸課題の解決に向けて自ら考える力を身に付けている。
4. 異なる価値観を認め合い、自ら人間関係を形成する力を身に付けている。
5. 地域社会の一員として、保育実践力や社会性を高めようとする力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-008.pdf>）

(概要)

介護福祉学科

本学科のカリキュラムは、本学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に次のような点に留意して編成しています。

1. 社会の成り立ちを深く理解できるよう、介護や福祉に関連する幅広い科目を提供する。
2. 収集した情報から、第三者が理解できるような具体的かつ論理的な思考と説明が可能となるよう、演習授業や実習を重視する。
3. 演習やフィールドワーク、実習において、幅広く情報を収集し、個人を全人的に理解することを体験する。
4. 人権尊重や自立・自律、自己選択、自己実現を支援する視点に立った科目を系統的に複数配置する。
5. 少人数のゼミ、演習、フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育む。

子ども福祉学科

子ども福祉学科のカリキュラムは、本学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に以下のような方針のもとに編成されています。

1. 「子どもの育ちを支える」ために必要な力を身につける
 - ・保育や子どもの発達に関する基礎的な技能・知識に関する科目を、(保育実習の配当時期と連関させて) 実習前に学ぶもの、実習を踏まえて深める内容を吟味して配置する
 - ・講義・演習科目で得た知識・技能を実習及びゼミで実践的に深めることを重視する
2. 「保護者の子育てを支える」ために必要な力を身につける
 - ・「子ども」「子育て」に関する知識を土台として、さらに保護者を支援できる技術・態度を学ぶ
 - ・少人数での演習、グループワーク、フィールドワーク等実践的な学びにつながる内容を重視する
3. 「子どもと子育てにやさしい社会をつくる」ために必要な力を身につける
 - ・福祉・教育に関する知識・人権や子どもの権利について学ぶことで、社会の成り立ちについて理解し、考える力を養う
4. 人間性・倫理性・共同性を育てる
 - ・社会人としての知識・教養を身につけ、表現する力を養うための科目を配置する
 - ・初年次には人権を尊重する態度や福祉にかかわるものの倫理性について学ぶ科目を配置し、卒業年次にはそれを総合させ、深める科目を配置する
 - ・様々な科目の中で、成果発表や共同学習の機会を取り入れ、それらの取り組みを通して、企画・発表する力と他者と共同する態度を育てる

保育・幼児教育学科

保育・幼児教育学科では、ディプロマ・ポリシーで明記している能力・資質を身に付けるために、以下の方針で教育課程（カリキュラム）を編成しています。

1. 教育内容

教育理念に示す「人間とその生活実態を科学的に把握することを土台として、人々がより幸福に、快適に、人間らしく暮らすことのできる方法を見いだすための実践を学ぶ」ことを教育の基本とします。教育課程は教養科目、専門基礎科目、専門応用科目、専門実践科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実技及び実習等を組み合わせた授業を展開します。これらの科目の具体的内容は次の通りです。

(1) 教養科目

社会人として基礎的な知識・教養を学ぶ科目を配置するとともに、1年次には大学での学びをより豊かにするために「文章表現」や「教養基礎演習Ⅰ・Ⅱ」などの

初年次教育を実施します。また、段階的に自己のキャリア形成を考え、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を修得します。

(2) 専門基礎科目

保育や幼児教育に関する基礎的な知識、子どもの育ちを支えるための技能を修得します。

(3) 専門応用科目

専門基礎科目で学んだ知識や技能などをもとに、自ら考えたり、表現したりすることで保育実践力や社会性を修得します。

(4) 専門実践科目

教養科目、専門基礎科目、専門応用科目で修得したことをもとに実践的・体験的に学習することを通して、「より良い保育や幼児教育」に向けて自ら考える力、自ら人間関係を形成する力、保育実践力や社会性を高めようとする力を修得します。

(5) 専門研究科目

保育者として求められる教養とコミュニケーション能力、協働性を身に付けるために、少人数によるゼミナール形式での授業や体験的・参加型行事を実施します。それによりこれまでの学びを総合的かつ統一的にとらえ、学生の興味・関心に応じて探求的に学修します。

2. 教育方法

- (1) 1年次は必修科目を中心に保育や幼児教育に関して基礎となる科目を配置し、2年次は学生の興味・関心に応じて履修する科目を選択できるように配置します。また、保育実習や幼稚園実習の実施時期を踏まえて、実習前に学ぶ科目と実習を踏まえて深める科目を吟味して配置します。
- (2) 講義、演習、実習、実技を組み合わせたり、成果発表や共同学習の機会を取り入れたりすることで、知識の修得だけでなく、学生同士の学び合いを促すような授業の展開に努めます。
- (3) 少人数でのグループワーク、フィールドワーク等実践的な学びにつながる内容を重視します。実習以外に、子どもたちの前で実践する機会を設け、応用力やコミュニケーション能力の獲得に繋がる授業実践も取り入れます。
- (4) 保育・教職履修カルテの作成を通じて、学習姿勢の改善や自己課題の解決に向けた取り組みを推進し、教育内容の確実な定着を目指します。

3. 学修成果の評価

学期末の試験のみならず、科目の特性に応じて、提出課題や実技・作品発表、単元ごとの課題などの複数の観点から学修到達度を評価することに努めます。

地域総合介護福祉学科

本学科のカリキュラムは、本学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、特に次のような点に留意して編成しています。

1. 社会の成り立ちを深く理解できるよう、介護や福祉に関連する幅広い科目を提供する。
2. 収集した情報から、第三者が理解できるような具体的かつ論理的な思考と説明が可能となるよう、演習授業や実習を重視する。
3. 演習やフィールドワーク、実習において、幅広く情報を収集し、個人を全人的に理解することを体験する。
4. 人権尊重や自立・自律、自己選択、自己実現を支援する視点に立った科目を系統的に複数配置する。
5. 少人数のゼミ、演習、フィールドワークを通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide->

(概要)

介護福祉学科

本学科は、介護や社会福祉に関する学問を修め、介護福祉士国家資格の取得を目指す学科です。それらを鑑み、以下にアドミッション・ポリシーを示します。

1. 「介護」や「福祉」について自ら考えようとする人
2. 社会の成り立ちや自らの生活について、興味をもっている人
3. 自ら進んで学ぶ意欲がある人
4. 人間に興味をもっていて、他者とかかわることができる人
5. 日常生活において他者に情報伝達したり、他者からの情報を受け取る能力を有している人

高校の授業や課外（クラブ）活動等の中で、自分なりに意欲・関心がもてるものに取り組み、アドミッション・ポリシーで掲げている各学力を身につけてきた学生を求めています。また、入学後も同様に、自ら意欲・関心がもてるものを見つけ、さらに学力を伸ばそうとする学生を求めています。

入学選抜においては面接を重視し、対話を通じて、アドミッション・ポリシーで示している各学力の評価を行います。また、受験の形態に応じて、面接とともに小論文や現代国語の試験も実施し、多角的に評価を行います。その中で、受験者自身のこれまでの体験や、そこから得られた学びの有無、自らの考えの在り方を評価します。なお、本学入学にあたっては、事前に、インタビューを通じて高齢者や障がい者の暮らしを学ぶことを求めています。

子ども福祉学科

本学科では、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状の取得を目指します。本学の教育理念を理解し、学修を通して以下の目標を達成しようとする意欲のある学生を求めています。

1. 子どもが好き、人間が好きで、いろいろな人とかかわりたい。
2. 誰かのために、自分を生かしたい。あてにされる自分を発見したい。
3. 人間のくらしや社会に関心があり、さらに理解を深めたい。
4. いろいろな人と力を合わせて、子どもと一緒に自分も成長したい。

上記の目標に向かい、入学前の自分の生活や経験について振り返り、他者にそのことを伝える努力ができる学生を求めています。また、入学予定者には入学前教育に参加し、学修の準備を行うことを求めます。さらに入学後には、目標達成のための努力を惜しまない学生を求めます。

入学選抜においては、自分の経験を振り返り、そこでの学びを伝える力について面接を中心に評価を行います。受験形態によっては小論文・国語も実施し、多様な学生の受け入れを目指します。

保育・幼児教育学科

【求める学生像】

本学科は、「教育・福祉にかかる専門職養成教育を通して、学生個々が自らの自己実現を図りながら、地域社会への最大限の参加が実現できるための能力を獲得できるように支援すること」を教育の理念に掲げています。そのような教育理念の下、本学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育をおこなっています。こうした教育を受けるために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求めています。

- 1) 知識・技能
 - ・ 保育・幼児教育を学ぶために必要な高校卒業程度の基礎学力を有している人
- 2) 思考力・判断力・表現力

- ・入学前の自分の生活や経験について振り返り、他者にそのことを伝えることができる人
- ・将来のビジョンや自分の目標について他者に具体的に伝えることのできる人

3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・短期大学での学びのために、以下の目的意識や意欲等を有している人
 - ①子どもが好き、人間が好きで、いろいろな人とかかわりたい
 - ②地域のために他者と協力して自らの資質・能力を高めたい
 - ③子育てをめぐる社会について関心があり、子どもやその周囲の環境について理解を深めたい

【入学者選抜の基本方針】

本学科の入学試験では、上記の学生を多様な評価基準によって選抜するために、総合型選抜、学校推薦型選抜 A・B、一般選抜、社会人選抜を実施します。

【具体的選抜方法と、求める学生像との関係】

全ての選抜で入学希望理由書として「自己 PR」と「志望理由」の提出を求めます。

総合型選抜では、2)、3)を重視し、面接を中心に評価をおこないます。選抜方法によっては、資格・検定試験の成績やオープンキャンパスの体験レポートを評価に加えます。

学校推薦型選抜 A・B では、2)、3)を重視し、選抜方法によっては小論文、実技（ピアノ・歌唱）、プレゼンテーションのいずれかをおこない、それらの内容に関連した面接を中心に評価をおこないます。

一般選抜では、1)を重視し、個別学力検査を実施します。選抜方法によっては「現代の国語」と集団面接を組み合わせ評価をおこないます。面接を実施しない場合は、「現代の国語」、「歴史総合」、「数学Ⅰ」、「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「家庭基礎」の中から2科目を選択するか、記述式総合問題によって評価をおこないます。

地域総合介護福祉学科

本学科は、介護や社会福祉に関する学問を修め、介護福祉士国家資格の取得を目指す学科です。それらを鑑み、以下にアドミッション・ポリシーを示します。

1. 「介護」や「福祉」について自ら考えようとする人
2. 社会の成り立ちや自らの生活について、興味をもっている人
3. 自ら進んで学ぶ意欲がある人
4. 人間に興味をもっていて、他者とかわることができる人
5. 日常生活において他者に情報伝達したり、他者からの情報を受け取る能力を有している人

高校の授業や課外（クラブ）活動等の中で、自分なりに意欲・関心がもてるものに取り組み、アドミッション・ポリシーで掲げている各学力を身につけてきた学生を求めています。また、入学後も同様に、自ら意欲・関心がもてるものを見つけ、さらに学力を伸ばそうとする学生を求めています。

入学者選抜においては、高等学校での学習や課外活動を通して身に付けた「知識・技能」、それを基礎とした「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」と、介護福祉を学ぶことに対する意欲について総合的に評価します。従って、本学科入学にあたっては、介護福祉の対象者（高齢者や障がい者）の暮らしや思いについて書かれている著書や、対象者への聞き取り等を通して、その実態に触れておくことを勧めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-01-001.pdf>

<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-001.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
介護福祉学科	－	4 人	0 人	3 人	0 人	0 人	7 人
子ども福祉学科	－	3 人	2 人	3 人	0 人	0 人	8 人
保育・幼児教育学科	－	2 人	2 人	2 人	0 人	0 人	6 人
地域総合介護福祉学科	－	2 人	1 人	2 人	0 人	0 人	5 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
3 人		26 人					29 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公 表 方 法 : http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/guide-college/midori-info/pdf/midori-info-02-004.pdf					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
介護福祉学科	29人	31人	106.9%	49人	60人	122.4%	0人	0人
子ども福祉学科	35人	27人	77.1%	85人	56人	65.9%	0人	0人
保育・幼児教育学科	36人	20人	55.6%	76人	45人	59.2%	0人	0人
地域総合介護福祉学科	20人	24人	120.0%	30人	39人	130.0%	0人	0人
合計	120人	102人	85.0%	240人	200人	83.3%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
介護福祉学科	22人 (100%)	0人 (0%)	22人 (100%)	0人 (0%)
子ども福祉学科	24人 (100%)	0人 (0%)	24人 (100%)	0人 (0%)
保育・幼児教育学科	43人 (100%)	0人 (0%)	41人 (95.3%)	2人 (4.7%)

地域総合介護 福祉学科	6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)
合計	95 人 (100%)	0 人 (0%)	93 人 (97.9%)	2 人 (2.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスの作成過程について： 本学では各科目担当者にシラバスの作成を依頼し、教務事務が取りまとめ、学科長・教務主任・教務事務によるチェックを行い、必要な場合は科目担当者に修正を依頼し、シラバスを作成している。また、科目担当者に対し、シラバス作成のガイドラインを配布する他、シラバス作成のガイダンスを実施している。 シラバスの作成・公表時期： 作成されたシラバスは、3月～4月に新入生・在学生に配布され、その後ホームページで公表される。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修の成果に係る評価について、シラバスにより学生にあらかじめ示された成績評価の方法・基準に基づき各科目担当教員が成績評価を行っている。成績は100点満点で採点し、学生に通知している。60点以上の成績をおさめた科目についてその単位取得を認めている。点数及び評語の対応は以下の通り。 100点～90点… S (学習目標を十分満たし、特に優れている) 89点～80点 … A (学習目標を十分満たし、優れている) 79点～70点 … B (学習目標を十分満たしている) 69点～60点 … C (学習目標を最低限満たしている) 59点以下 …… D (学習目標を満たしておらず、単位と認めない)
--

卒業又は修了の認定に当たっての基準について、本学では以下の通りディプロマポリシーを策定している。

介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科（共通）：

介護福祉学科及び地域総合介護福祉学科は、こころとからだの健康やいのちを守り、社会福祉の充実をはかる人材の育成を教育目標としており、必要とされる授業科目の単位を含め、62 単位以上を取得したものに対して短期大学士の学位（介護福祉学）を与える。

1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間性と社会性を身につけている。
2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる。
3. 介護や福祉に対する深い関心をもち、主体的に学び、自ら考えられる力を身につけている。
4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身につけている。
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている。

子ども福祉学科及び保育・幼児教育学科（共通）：

子ども福祉学科及び保育・幼児教育学科では、保育と幼児教育を中心に、子育てにかかわる社会福祉の充実に貢献できる人材の育成を教育目標としています。学習を通じて以下の目標を達成し、必要とされる授業科目を含め 62 単位以上を習得したものに対して短期大学士の学位（保育学・教育学）を与えます。

1. 子どもの育ちを支える人となる
 - ・専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる
 - ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる
 - ・保育者として子どもの豊かな心を育む
2. 保護者の子育てを支える人となる
 - ・子どもと保護者の状況を理解することができる
 - ・保護者とより良い関係をつくりながら子育てを支える
3. 子どもと子育てにやさしい社会をつくる人となる
 - ・社会の仕組みを理解する
 - ・社会のあり方について考える・実践する
4. 人間性・倫理性・共同性をもつ人となる
 - ・社会人としての知識・教養やコミュニケーションと人間性、科学的・論理的に考え、表現する力を身につける
 - ・文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につける

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	介護福祉学科	62 単位	有・無	単位
	子ども福祉学科	62 単位	有・無	単位
	保育・幼児教育学 科	62 単位	有・無	単位
	地域総合介護福祉 学科	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.kenko-fukushi.ac.jp/web/campus-life/facility/index.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	介護福祉 学科	750,000 円	200,000 円	350,000 円	施設設備費、実習費、行事費等
	子ども福 祉学科	750,000 円	200,000 円	350,000 円	施設設備費、実習費、行事費等
	保育・幼 児教育学 科	550,000 円	200,000 円	400,000 円	施設費、実習費
	地域総合 介護福祉 学科	500,000 円	200,000 円	400,000 円	施設費、実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生の修学については、次のような体制を組んで、一人の学生を二重にサポートしています。 1）クラス制を取り、それぞれのクラスにアドバイザーを配置して、学習面と生活面の指導をしています。 2）さらに 15～20 人前後の少人数編成でゼミを編成して、ゼミ指導教員を配置して、学生のサポートにあたっています。 このようにアドバイザーとゼミ指導教員が情報交換しながら、一人ひとりの学生の状況を的確に把握し指導しています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 進路選択については、キャリア支援センターを設置し、進路指導担当職員が情報の収集、進学・就職に関する指導や支援を行っています。また、ゼミ指導教員も個別指導に当たっています。就職に関しては求人件数が多く、ほとんどの学生が卒業までに就職を決めています。進学に関しては、多数の 4 年制大学から指定校の枠を与えられているので、3 年次編入試験を受験して進学できます。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 本学の各学科は実習が必修科目なので、実習に向けて全員が集団検診を受けて、健康管理には万全を期しています。また、「はしか」についての受診調査は全員対象に行い、インフルエンザ等の流行に対しては大学独自の対策を立てて、集団感染の防止に努めています。 学生の相談については、学生支援室を設け、カウンセラーを配置し、いつでも相談に応じられる体制をとっています。また、学生が気軽に利用できるように、企画イベント『性格診断チェック』なども実施しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://kenkyu-kenko-fukushi.blogspot.com/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F227310108632
学校名（〇〇大学 等）	大阪健康福祉短期大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人みどり学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		44人（ － ）人	41人（ － ）人	49人（ － ）人
内 訳	第Ⅰ区分	29人	25人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	一人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				49人（ － ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	一人	一人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	一人	人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	一人	0人
計	人	一人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。